

5.15 tue

12:00-18:00

5.16 wed

12:00-18:00

5.18 fri

12:00-18:00

5.20 sun

12:00-16:00

¥6,000

(通し受講料)

森下スタジオ S 5/18[金]のみスタジオ A

アドベンチャー * 通し受講のみ受付

講師: トراجال・ハレル(振付家、キュレーター、『ムーブメントリサーチ・ジャーナル』編集長)

+ デイビッド・ベルグ(振付、写真、パフォーマンス)

—

振付概念を鋭利に革新するその前衛性でアメリカ・ヨーロッパで注目を集めるトراجال・ハレルと写真アーティスト、デイビッド・ベルグによるワークショップ。二人のリードのもと、リサーチに基づき徹底討論、交流・実践ワークショップとして参加者は最終日に身体パフォーマンスを伴う発表を行ない、ダンス/パフォーマンスを思考する画期的なプログラム。

—

対象: ダンサー、振付家、ビジュアルアーティスト(美術家)、ジャーナリスト(プロもしくは志望者)

応募方法: 以下の2点を応募先までE-mailにてお送りください。ご応募の際、電話番号をお書き添えください。選考後に事務局よりE-mailでご連絡いたします。

CV(活動歴) [日本語・英語] | 参加志望動機 [日本語400字以内]

締切: 2012年4月30日[月] 応募先: bodyartslab@gmail.com

Research Workshop

5.17 thu

Gallery Objective Correlative

Performance

12:00-20:00

無料(予約不要)

The Ambien Piece (Tickle the Sleeping Giant stage #10)

作: トراجال・ハレル(デイビッド・ベルグとの共同制作)

パフォーマンス: デイビッド・ベルグ、トراجال・ハレル

—

パブリック空間における

振付/プレゼンテーション形式のラディカルな再定義



Photo by David Bergé

Created by Trajal Harrell
in collaboration with
David Bergé
Performed by David Bergé
and Trajal Harrell

『The Ambien Piece(睡眠薬の作品)』は、パブリックな場で発展・拡張していくストラクチャーの提示というコンセプトのもと、ダンサーが睡眠薬を飲み、眠り、ステージ上で目を覚ますというパフォーマンス。振付における意識的/無意識的な動きの区別、存在・演劇性・スペクタクル性の有無を探求する試みであるが、WWFesでは、東京での1回限りのパフォーマンスとして新たにStage#10を発表する。

5.19 sat

森下スタジオ A 2回公演 | 各回定員限定25名

Performance

18:00

¥1,000

19:30

¥1,000

Choreography and
Dancer: Trajal Harrell
Lighting: Stefané Perraud,
Trajal Harrell
共同制作: Skite 2010, The
Kitchen(ニューヨーク)
助成: James E. Robison
Foundation, The Alfred
Meyer Foundation

Twenty Looks or Paris is Burning at The Judson Church (XS)

振付・出演: トراجال・ハレル

—

ダンスあるいはモードの考察

クリティカルな実験シリーズを日本初上演

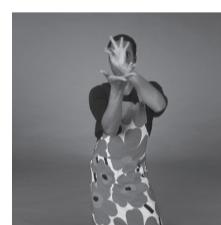


Photo by Antoine Tempé

4月から5月にかけて、オランダ"Springdance Festival"を皮切りに、
ニューヨーク、東京、フランスの"Festival Nouvelles"、
CNDCアンジェでシリーズが上演される話題作

60年代のポスト・モダンダンスと、同時代に主に黒人のゲイコミュニティで起きたヴォーギングの現象をパラレルにパフォーマンスで考察する実験的シリーズの一つ。(XS)は、(XL)まである5つのサイズのなかで、観客との親密さを追求した最小サイズであり、シリーズの最初に位置づけられる。

5.20 sun

森下スタジオ S

Performance

17:00

無料

アフタートークあり

トراجال・ハレル+デイビッド・ベルグ アドベンチャー発表

出演: ワークショップ受講生

—

ワークショップ生による『The Ambien Piece(睡眠薬の作品)』再構築バージョンのプレゼンテーションを予定。

5.25 fri

森下スタジオ S

Performance

18:30

¥1,000

ノーテーションシリーズ I

出演: 実験音楽とシアターのためのアンサンブル(パフォーマンスグループ)

[井上美香、久保田翠、河野聰子、北條知子 ほか予定]、川染喜弘(sound/performance)

演目: 『A Few Silence』G. Duglas Barrett(2008)、『Lizard Music』David Toop(1972)、川染喜弘単独ライブ

—

スコアとパフォーマンスの関係性を組みかえ、新たな回路を繋ぐ作品を上演する。演奏者にその場で記譜させる『A Few Silence』は、作曲主体を二重化し、パフォーマーの位置づけをもずらす。川染喜弘はスコアを演奏によって隨時書き換え/加える。(キュレーター: 北條知子)

ノーテーションシリーズ II—「病める舞姫」テキストによる作品

出演: 田辺知美(舞踏家)、川口隆夫(ダンサー/パフォーマー)

—

舞踏の創始者、土方巽(1928-86)の著書『病める舞姫』をテキストに、言語感覚と身体表現との関係、辺境における身体などをそれぞれの解釈で浮かび上がらせる。『病める舞姫』をノーテーション(舞踏譜)にすることで、舞踏のメカニズムの普遍性を探る。(キュレーター: 田辺知美)

5.26 sat

森下スタジオ S

Roundtable

13:00-17:30

ドネーション(寄付制)

ラウンドテーブル | On The Boat

出演: 武田知也(フェスティバル/トキヨ制作統括)

田坂博子(恵比寿映像祭キュレーター、東京都写真美術館学芸員)、田村友一郎(写真・映像)

手塚夏子(振付家)、武藤大祐(ダンス批評家)、山崎広太(振付家) ほか予定

—

キュレーター、オーガナイザー、批評家、振付家、美術家などが対話し、身体芸術をめぐる環境への現在の認識を交換する会議。何にフォーカスしてダンスまたはアートをしているのか? — インディビジュアルに社会の一員として活動するためのヴィジョンを写しだす貴重なセッション。

* 関連企画として、5/11[金]19:00より森下スタジオにて、トراجال・ハレルのパブリックトークが開催予定です。

* 以上のはか、マルテン・シュパンベルグのプログラムを開催予定です。詳細はWEBサイトで発表します。

* プログラムの内容は予告なく変更される場合がありますので、ご了承ください。

5.27 sun

森下スタジオ S

Performance

15:00

¥1,500(一般)

¥1,000(学生)

ダンスヒストリープロジェクト 公演+トーク

ケイタケイ・ソロダンス

『LIGHT, Part 8』(1974年初演) | LIGHT, Part 34より『若葉の踊り』(2011年初演)

演出・振付・衣装・出演: ケイタケイ(舞踊家・振付家)

トーク聞き手: 長谷川六(ダンスワーク編集長、ダンサー)

—

現在も活躍し、長年ダンスに貢献する振付家の辿った道をリサーチすることは、必然的にダンスの潮流を掘り起こし、これからのアーティストに確かな指針を与えるに違いない。1970年代のダンスの歴史考察と、同時代に活躍したケイタケイによる公演を行なう。

5.29 tue

渋谷界隈 * 詳細はWEBサイトで発表します。

Performance

14:00

無料(予約不要)

invisible site specific

出演: 有志パフォーマー

—

都市における無名性の身体を改めて凝視することによって、都市そのものが劇場化する経験を、都市の再発見へと結ぶ。そこにはパフォーマンスの本来持っている祝祭性はまったくない。

5.29 tue

森下スタジオ S

Performance

5.30 wed

ドキュメンテーション #4: パレスチナ

コンセプト、デザイン、振付: チュウマヨシコ(ダンサー・振付家、スクール・オブ・ハードノックス芸術監督)

写真: ロバート・フラント | パフォーマー: チュウマヨシコ、西村未奈 ほか

映像/制作: 大石宏樹 | 協力: Root Culture

—

『パレスチナ PALESTINE』はラマッラー Ramallah(パレスチナ)への3回の訪問を通してヨシコチュウマが経験したことを、写真、ダンス、ビデオなどのメディアを同時に組み合わせて行なうドキュメンテーションである。5月初めにはニューヨークのLaMaMa劇場で行なわれる。危機的な情勢が続く中東へ日本人として足を運び続けるヨシコチュウマの作品は世界へ発信するメッセージである。

6.2 sat

森下スタジオ C

Performance

17:00

¥500

スタジオラボ—新人振付家育成プログラム

振付家: 山田歩・唐鑑将仁

キュレーター: 大橋可也(振付家/大橋可也&ダンサーズ主宰)

—

先駆的な指向をもつたこれからのアーティストに振付家としての可能性を与えるプログラム。制作費をサポートされた新人振付家が公演を行なう。キュレーターと、選出された振付家との信頼関係で成り立っており、2009年のWWFes創始以来継続する、BALの中心的プログラム。

19:00

¥1,000

写真と身体

出演: デイビッド・ベルグ(振付、写真、パフォーマンス)

上村なおか(ダンサー・振付家)、西村未奈(ダンサー・振付家)

—

振付・写真・パフォーマンスの境界を活動テリトリーとするベルギー在住のアーティスト、デイビッド・ベルグと、ダンサー、上村なおか、西村未奈とのコラボレーション。見る/見られる関係とダンスが織りなす時間が写真と身体を新たにフレーミングする。

6.3 sun

森下スタジオ C

Performance

18:00

¥1,000

NOW HERE DANCE

出演: 平原慎太郎、三石祐子、田上和佳奈、櫻井ことの、鈴木清貴、JOU、渡邊絵理

石和田尚子、木野彩子、山崎麻衣子、菊池尚子、山田茂樹、石山優太、富士奈津子

鎌倉道彦、新宅一平 ほか

—